

学校関係者評価 (2017年度)

1 教育方針

校訓「立志」「誠実」「努力」の具現化を目指し、生きる力に裏打ちされた生徒の学力向上を目指す。生涯にわたって人間性豊かにたくましく生きていく資質や能力、未来を切り拓く力の育成を目指し、あらゆる教育活動を通して、「一所懸命勉強」「人的財産」「愛校心」を大事にし、確かな学力を育む学校づくりを推進する。

2 本年度の重点目標

- 信頼できる学校を目指し、基礎的な知識及び技能の確実な習得と定着を図る。また魅力ある特色類型とそのための科目開発を行い、より一層学力の向上を推進する。
- 人間理解に基づいた指導を通して規律ある生活態度を育成し、善悪の判断力を培い、生活習慣の確立とマナー向上を目指す。
また家庭や地域との連携を図り、きめ細かく丁寧な教育実践を展開する。
- 高校生ふるさと貢献事業、就業体験事業を推進し、幼稚園・小学校・中学校・社会福祉施設・社会福祉協議会との連携を図り、地域と共に育てる「地域共育」を実践する。
- 学校評議員制度及び学校関係者評価を活用して、学校評価の一層の充実を図り、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- リーガルマインド類型の特色を活かし、教職員としての専門性、実践的指導力の向上と社会の変化に対応した教育観を培うとともに、互いを認め励ましあう職場環境づくりを推進する。

学校自己評価結果 (4・・・よく当てはまる 3・・・どちらかといえば当てはまる 2・・・どちらかといえば当てはまらない 1・・・まったく当てはまらない)

3 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

評価項目は概ね妥当である。様々な観点からの評価を有効活用してほしい。

4 総合的な学校関係者評価

「須磨東高校生は明るく元気である」という項目がどの学年とも評価が高く、生徒は活き活きと学校生活を送っていることが伺える。生徒会活動や部活動にも熱心に取り組んでいる様子がよく伝わってくるのでさらに充実した学習や行事に取り組んでほしいと思います。また進路目標についても、学年が上がるにつれて大変高い数値を示しており、生徒の進学意識が高く、今後の進路実績に期待したい。

評価の観点	評価項目	取組内容	達成状況 2017/2016		成果と課題 (改善の方策)	自己評価の適切さ	
学習指導	基礎・基本の徹底	1 「年間指導計画」「シラバス」等を作成し学習目標を明確化し、生徒が学習目標を設定しやすいようにする。	3.2	3.3	「年間指導計画」「シラバス」について生徒への周知が十分でない。学習意欲の向上、個に応じた指導の充実とも併せ、何をどのように生徒に伝えて、学習意欲の向上につなげていくか、引き続き課題といえる。また、休日や放課後の時間の使い方として、家庭学習はもちろん塾なども含めた自学自習の時間、部活動(特に運動部)の時間、家族を含めたプライベートの時間の3つと考えるとこの三者のバランスをどのようにとるかが課題となる。	「本校に入学してよかった」という最もベースになる数値が年々増加している。このことから文科省の研究開発指定校としての取り組みやリーガルマインドの教育が生徒をはじめ、広く浸透しつつあるのではと感じる。今後に期待したい。	
		2 学力を的確に把握し、課題を適切に与えるなど学習習慣の定着を図る指導をすすめる。	3.3	3.5			
	学習意欲の向上	3 わかる授業、達成感や成就感が得られる授業を行う。	3.4	3.5	各教科ごとにノート提出や小テストの実施などにより基礎学力の充実を図ってきた。しかし、家庭学習の時間はまだ十分とは言えない。		
		4 進路に関する啓発的な体験活動に参加することや進路相談会・講演会等を通して学習の動機付けをおこなう。	3.1	3.2			
	個に応じた指導の充実	5 能力・適性・進路等に応じた類型、選択科目を工夫する。	3.0	3.0	夏休みの三者面談以外にも適宜個別面談を実施。進路(学部・学科)説明会の実施した。		
生徒指導	人間的なふれあいにもとづく生徒指導	6 行事や部活動を通して自主・自立の精神を養う。	3.2	3.2	制服の正しい着用、あいさつの励行、登下校を含めた学校生活におけるマナーの向上、時間厳守で行動すること等々について引き続き継続的な指導を行う必要がある。各学年とも学年集会などを通して、基本的な生活習慣を身につけることの重要性を理解させる指導を行っているが浸透してきたように感じる。特に第二学年では修学旅行での実践に活かすことができた。	「須磨東高校生は明るく元気である」という項目が、どの学年とも評価が高く、生徒は活き活きと学校生活を送っていることが伺える。生徒会活動をより活性化していく必要がある。	
		7 校則・マナー・時間を守るなど基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を行う。	3.4	3.1			
特別活動	特別活動の充実	8 行事の精選を行い、行事内容を充実させる。	2.8	2.7	行事内容の継承と精選を今後さらに検討を重ねていく。教師主導でなく、生徒による自主的な運営が行える下地作りをさらに力を入れていきたい。		
		9 生徒会活動や委員会活動を活発にする。	2.8	3.1			
課題教育	保健・安全教育	10 健康生活に必要な知識を理解・体得させ、健康管理に心掛ける意欲を育成する。	3.2	3.0	「保健ジャーナル」(生徒会・保健委員会発行)を通じ、生徒・教師に衛生・健康生活の普及に努めた。インフルエンザ対策にも、生徒会・放送部が主体的に取り組み、保健・衛生意識の向上に成果をあげた。	最近の生徒の傾向として依存心が高い生徒が多いが、彼らにどうアプローチするか。複数の先生から一人の生徒に日常的に接することが重要である。	
	防災教育	11 防災学習や防災訓練を通して防災に関する意識や知識・技能を定着させる。	2.9	2.8			防災教育・心肺蘇生講習会の機会を設け、生徒の安全を守るという意識を推進するよう努めた。
	人権教育	12 人権教育を中心にした講演会やホームルーム活動等を活用し、人権意識を高める。	2.9	2.8	すべての教科・科目を通して人権教育の姿勢をさらに強化していきたい。教職員研修として取り組んだアサーションの意識をさらに高める必要がある。		
	体験活動	13 「クリーン作戦」「ワークキャンプ」などのボランティア活動を通して「地域貢献事業」を活性化する。	3.2	3.1	PTAの協力だけでなく、地域との関係をさらに強化していきたい。学校全体として取り組めるように組織作りを図りたい。		PTA、地域が連携していくことはとても大事なことであり、体験活動、ボランティア活動なども地域等と連携していけば、より生徒の汎用的能力は高まっていくと思う。
		14 「ふれあい看護」「ふれあい保育」などの体験的学習を通して「就業体験事業」を活性化する。	3.0	3.1			
	図書指導	15 読書の推進、啓発を図ると同時に、図書および図書館の利用の推進について指導する。	2.2	2.4	閲覧室の整備に努めているが、生徒の利用は依然低調である。教科指導などあらゆる機会をとらえて啓発を進めるとともに、リーガルマインド類型で取り組んでくれた成果を活かして、30年度からさらに図書館改革に取り組む予定である。		
情報教育	16 人権尊重の視点に立ち、情報を主体的に収集、選択し、有効に活用したり、発信・伝達する能力を育成する。	2.9	2.8	教科情報の授業を通して、効果的なコミュニケーションの方法を修得させるとともに、情報の受信、発信時に配慮すべき事項を理解させるよう努めた。			
進路指導	進路指導の充実	17 個別面談・HR活動や進路説明会などを通して、将来の職業観につながる進路指導を醸成する。	3.4	3.4	できるだけ早い時期から具体的な進路目標を設定させ、実現のためにはどのような取り組みが必要かを認識させ、実行させる。と同時に、引き続き個々の進路希望の実現を図るための助言や支援を組織的に展開できるよう精力的に取り組むたい。	1年生からしっかり進路意識を待たせ、学習習慣を確立させ、計画的に進路について学習させてほしい。	
		18 生徒・保護者の進路希望を把握し、進路実現のために適切な助言・指導等を行なう。	3.4	3.3			

評価の観点	評価項目	取組内容	達成状況 2017/2016		成果と課題（改善の方策）	自己評価の適切さ
学校運営全般	共通理解にもとづく生徒指導体制の確立	19 職員間の連携・協力体制を整え、生徒指導方針に対する共通理解を図る。	2.9	2.9	生徒指導の局面における事象の多様化に対応して、幅広く丁寧に対応できる生徒指導体制を確立し、特別支援・いじめ対応チームとの連携を深めながら、研修会等を開催し教職員の意思統一を図る。	こころの教育を充実させることが重要視されている。キャンパスカウンセラーの活用などを通して生徒理解をさらに進めてほしい。
	キャンパスカウンセラーと連携した心の教育の充実	20 生徒の内面理解を図るための、教育相談事業を円滑に実施する。	3.2	3.2	特別支援教育の充実のためにも、コーディネーターや学年保健担当者・担任が対象生徒・保護者との接し方・心得などを、キャンパスカウンセラーの指導・助言を基に実践しており、効果が見られる。	
	組織的な進路指導の推進	21 3年間の計画のもと、進路指導部と各学年が連携し、個人面談・学年集会・保護者会等を通して進路指導を推進する。	2.9	3.1	HR活動や進路相談会などを通して個々のキャリアプランの創造や職業観、勤労観、進路意識を醸成する。また、学年と進路指導が模試結果等の情報を共有検討し、課題を見つけ解決策を探る作業が必要である。今後求められる「考える力」の醸成に取り組み、新たな入試改革に対応できるようにしたい。	「きめ細かな進路指導を行っている」という点での生徒の評価が上がっているのが、先生方の個々の生徒に対する努力の成果が伺われる。
	校務分掌の活性化	22 各部と学年間の連携を図り、分掌組織の活性化を図る。	2.7	2.7	各部・学年の具体的な取り組みや成果・課題などはほぼ達成できているように思うが、評価に表れていない点が課題である。学校評価を活用し、各部署において課題解決に向けた取り組みを行っていききたい。	項目24の評価に対して、22、23は低い。情報化が進むのは良いが、face to faceが大切である。紙に書いて読んでもらうだけではなく相互に意見を述べあい、協議を重ねていくことが大切である。
		23 学校評価等を活用し、各部・学年の具体的な取り組みと成果・課題の点検を行い、学校運営のステップアップを推進する。	2.7	2.6		
	情報システムの整備	24 校内LANの活用により、校務の効率化を図るとともに、情報セキュリティを向上させ、個人情報の保護に努める。	3.2	3.0	校内webの活用をさらに推進していく。教職員の研修の機会をさらに充実していく。	
部活動の充実	25 部活動を活性化するとともに、学習と部活動の両立を目指す意識を高める。	3.1	3.4	運動部の加入率は高いが、文化部の加入は低い。文化部の活動を活発にしたい。また、部活動に取り組む生徒の家庭学習時間の確保をいかに図るかが課題であり、NO部活ディをさらに定着できるように図りたい。	生徒会活動や部活動にも熱心に取り組んでいる様子が伝わるので、さらに充実した学習や行事に取り組んでいただきたい。	
開かれた学校づくり	開かれた学校づくり	26 オープンハイスクールや懇談会・保護者会・学年通信・学校ホームページ等を通じて保護者と連携する。	3.3	3.3	オープンハイスクールや学校説明会、校外における学校説明広報や中学校訪問の機会等を活かして、本校への進学を希望する中学生や保護者に、本校徒の活き活きとした活動ぶりを知ってもらえた点は、大変好評であった。	保護者が、リガ「ルマインド」特色類型等の教育活動をよく理解されていない面がまだまだあるようで、広報活動にさらに力を入れて展開していく必要がある。PTAや地域を巻き込んだ企画を検討する必要がある。
		27 PTA・学校評議員・地域住民の学校行事などへの参加協力により、地域と共に生徒を育成する。	3.0	2.8	学校ホームページを頻繁に更新して学校の様子を発信することを心掛け、PTAによる連絡網メールの設置により、学校の様子やPTA活動等の情報をこまめに発信した。今後も継続して情報発信に努めていきたい。	
危機管理体制の確立	危機管理体制の確立	28 危機管理マニュアルの整備と実践的訓練により危機対応能力の向上に努める。	2.7	2.9	避難訓練、総合的な学習の時間の活用等を通して、危機管理の意識を高め、避難所設営を含めた二次的な対応を想定した危機管理マニュアルの作成を通して、不測の事態に備えている。	避難訓練について、実施内容や方法について、30年度は検討を重ねていきたい。
教職員の資質向上	教職員の資質向上	29 生徒の学力向上と指導力の向上を目指し、授業研究や研修等を充実させる。	2.8	3.0	リガ「ルマインド」特色類型の導入に伴い、1年生は総合的な学習の時間において「リガ「ルマインド」基礎」として全員で取り組んでいる。この授業を通して、法的思考力や判断力等の考える力を育成することを最優先の課題としたい。また、インスピ「イスクール」事業やその他の指定を受けている関係から、多くの教職員は校務が多忙であり、休日、時間外に限らず授業研究・教材研究を行い、ストレスをためた教員もいる。管理職が率先して、ゆとりをもって授業に臨める体制をつくり、教科を超えて授業そのものが話題となつて論議できるような環境づくりをさらに推し進めていきたい。	教職員全体で取り組んでいく体制づくりを行い、教職員の資質向上につなげてほしい。
		30 日々の教育活動における課題や悩みについて、教職員が協力しあえる職場の体制をつくる。	2.9	2.7		